

夜間景観のあり方検討について（審議）

都心臨海部においては、これまで景観計画や都市景観協議地区（ガイドライン）等により、地区ごとの特性を生かした落ち着いた夜の夜間景観形成を行ってきました。一方、ナイトタイムエコノミーの推進や技術の進歩などにより、夜間景観を取り巻く状況は変化しています。

そこで、今後の夜間景観のあり方について、ガイドラインなど誘導方法を含めて検討を行い、**横浜ならではの新たな魅力創出**を目指します。

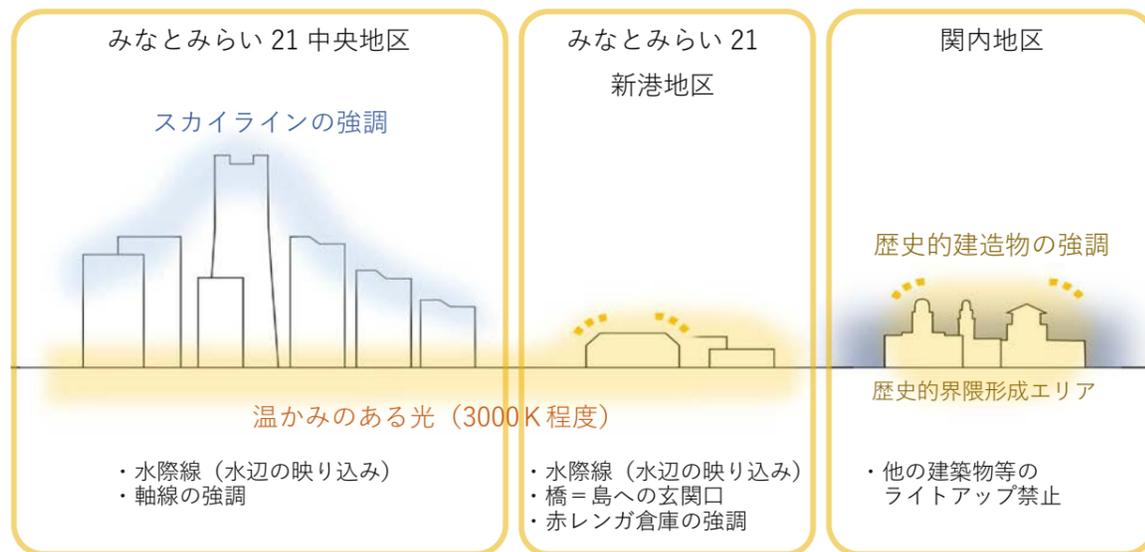
○本日の審議事項

- ・これまでの夜間景観の考え方についての再確認と課題認識について
- ・これからの夜間景観のあり方検討の方向性について

1-1. これまでの横浜市の夜間景観の考え方

落ち着いた夜の夜間景観の創出

- ① 地区ごとの特性を強調（地区別のガイドラインによる誘導）
- ② 歴史的建造物や街のシンボルを際立たせる



1-2. 課題認識

夜間景観を取り巻く状況	魅力につながる可能性	課題
大型客船の増加などに伴う、海側から見る機会の増加	今まで人がいなかった場所に人が増え、新たな魅力発見の機会が増える	多様な場所から夜間景観を楽しめることが必要
海際の施設の増加に伴う、夜間に海際を歩く人の増加		夜間暗いところがあり、安全・安心な夜の歩行環境が必要
歴史的建造物等のライトアップを利用したPRの取組の増加	新たな技術を用いた夜間演出が地域の魅力になる	・カラーライトアップ等特別な夜間演出が増加すると、常時の落ち着いた景観が楽しめなくなる恐れがある
観光エンターテインメント施設の増加に伴う、建物外面を利用した夜間演出ニーズの増加		・建物を魅力的に演出するための投影方法等の基準がなく、対応に苦慮している
建物壁面埋込型のサイネージやプロジェクションマッピングなど、技術の進歩による夜間演出イベントの増加と多様化	昼とは違う夜ならではの街を魅せる 都心臨海部全体で一体感のある夜間景観が、横浜ならではの魅力になる	・演出方法によっては、屋外広告物条例等による規制がかかる場合がある
ナイトタイムエコノミー推進のため、他都市にはない、夜間に人を呼び込む魅力が必要		・地区をまたぐような大規模イベントを開催したくても、現行制度では地区ごとに演出の考え方や基準が異なるため、一体的な演出を行うことが難しい ・魅力的な演出であっても、基準に合わない場合がある

【資料1】

第22回政策検討部会
令和2年10月8日
横浜市都市整備局
都市デザイン室・景観調整課



ブルーライトアップ
(神奈川県庁)



コスモクロック
(ピカチュウイベント)



プロジェクションマッピング



サーチライト (ピカチュウイベント)



スマートイルミネーション

2. これからの夜間景観のあり方検討の方向性

日常（ケ）とイベント時（ハレ）を分け、これまでの夜間景観の考え方を「ケ」として整理し、イベントについては特別感のある演出として柔軟に実施できるようにしたいと考えています。

- ① 「ケ」については、これまでの考え方を踏襲しつつ、さらにアップデートする必要がある
 - ・ベースとなる景観を調整する
(安全・安心な光環境、イベントやシンボルを引き立たせるための日常の落ち着いた夜の景観)
- ② 「ハレ」については、地域の魅力アップや活性化に向けて、積極的に実施可能とする
 - ・日常（ケ）との違いを明確にする

→ベースとなる「ケ」と、自由度が高い演出を行う「ハレ」の両輪で、「横浜らしさ」の表現に広がりを持たせる

3. 今後のスケジュール（案）

- 令和2年度 方向性確定
- 令和3年度 ガイドラインや景観計画等の制度変更案作成、変更手続き
- 令和4年度 運用開始